

# 日風集

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第73号 2010年12月1日



左から後列：伏見土人形（京都）/六原張り子（岩手）/小幡土人形（滋賀）/倉吉張り子（鳥取）/能古見土人形（佐賀）/佐原張り子（千葉）  
中列：西会津張り子（福島県）/香泉土人形（高知）/長門張り子（山口）/山形張り子（山形）/小幡土人形（滋賀）/花巻土人形（岩手）/春日部張り子（埼玉）/浜松張り子（静岡）  
前列：中湯川土人形（福島）/安芸張り子（高知）/三春張り子（福島）/中山土人形（秋田）/名古屋土人形（愛知）/金沢張り子（石川）

## 資料見聞

### うさぎの郷土玩具

平成23年は卯年です。そこで、山崎さんの郷土玩具コレクションからうさぎに集まってもらいました。

元々は切手収集家だった山崎さんは年賀切手になった郷土玩具をすべて収集しています。うさぎが年賀切手に初登場したのは昭和38年の卯年、能古見土人形の「うさぎ鈴」で、戦後生まれの郷土玩具です（後列右から二つ目）。

十二支を二回りした昭和62年は童話に出てくるようなかわいい2羽の「餅搗きうさぎ」で、江戸時代に遡るといわれる名古屋土人形ですが、残念ながら廃絶しました（前列右から二つ目）。次の平成11年は、曲芸のポーズも楽しい「玉乗り兎」（山形張り子・中央）と、素朴な味わいの「餅つきうさぎ」（佐原張り子・後列右端）の2種類です。平成23年の50円の年賀切手は西会津張り子「首振り招福卯」です。同地のうさぎは丸い目がキュートで、カゴに入った子もいます（中列左端）。

さて、昭和50年卯年の年賀切手とその郷土玩具だけは、山崎さんの人形部屋をいくら探しても見つかりませんでした。それもそのはず、その年は郷土玩具ではなく「水仙の釘隠し」が年賀切手になっていたのです。（中村）

昔のおもちゃ博物館 山崎茂さんの全国郷土玩具行脚あんぎゃによせて

会期 平成23年1月2日(日) ～ 3月6日(日) 中村淳子

山崎茂さんの人形部屋

高知市にお住まいの山崎茂やまざきしげるさんは、長年にわたって郷土玩具を収集してきました。その数は約1万2千点にのぼります。これまでも当館では、山崎さんの郷土玩具を紹介する企画展を開催しました。そのときには、「おひなさま」や「端午の節供」をおもなテーマとしました。



山崎茂さんと伏見人形の飾り馬  
京都から車で大事に運んだお気に入りの一品。

この度、山崎さんから全国の郷土玩具が当館に寄贈されることになりました。そこで今回の企画展は、その一部をお披露目するとともに、山崎さんおすすめの各地の郷土玩具をご紹介します。と考えています。

山崎さんの人形部屋を訪ねると、郷土玩具の数の多さに圧倒されます。人形たちをじっくり眺めていると、その多様性がみえてきます。

例えば、干支えとの動物にはそれぞれ棚が用意され、伏見人形(京都)をはじめ堤人形(宮城)や古賀人形(長崎)など各地の土人形のコーナーや、三春みよ張り子(福島)などのコーナーも作られています。壁には張り子面が所狭しとかけられ、天井には凧が吊されています。

おひなさまの棚は、ひときわ華やいています。一口におひなさまといっても、立雛たちひなもあれば、内裏雛うちりひなもあります。多くは土人形や張り子ですが、瓢箪ひょうたんや繭まゆなど変わった素材のおひなさまもみえます。

おひなさまの隣の棚にズラリ並んだ天神さまも、種類の豊富さでは負けて

趣味の郷土玩具収集

いけません。赤天神に黒天神、牛乗り天神に、学問の神さまらしくお堂のなかまに祀られた堂内天神など、さまざまなお姿です。なかでも三次人形みよし(広島)の松負天神まつおひは、山崎さんのコレクター心をわしづかみにしたといえます。

郷土玩具には、旅との強いつながりがみられます。郷土玩具は、旅行土産みやげとしても手頃でした。昭和初期の観光ブームと相まって、全国的な郷土玩具の収集ブームが訪れました。その頃に「郷土玩具」という名称も生まれ、定着していきました。

収集家たちのバイブルとなったのは、明治24年(1891)から大正13年

「うない」とは子どものことを。何かを夢中になつて集めることができるのは、童心を持った人だけの特権なのかもしれません。

それは昇り猿からはじまった

山崎さんは、昭和43年(1968)から郷土玩具を集めはじめました。その年の年賀切手に選ばれた宮崎県の「昇り猿」が、収集の第一号です。

大正9年(1920)申年生まれの山崎さんは、そのとき48歳。戦争から帰ってきたのち、勤めた会社は高度経済成



昇り猿(宮崎)  
猿の郷土玩具には特に愛着があります。





山崎さんの人形部屋 木の梁にも温もりが感じられ、棚には産地や題材別に分類された人形が並び、眺めていると時間を忘れます。

出雲張り子の虎（島根）昭和37年の年賀切手になった虎。張り子の虎は首振りが多いそうです。



三春張り子（福島）豊かな色と動きのある姿に惚れ込み、三春のデコ屋敷で沢山買ったそうです。



八幡馬（青森）馬市で愛馬の無事を祈った木馬がはじまりとか。「郷土玩具には物語がある」と山崎さん。



祇園祭りの船鉾（京都）郷土玩具を買う楽しみに、祭りを見る楽しさが加わると行脚はさらに充実します。



土佐の郷土玩具 コレクションの中で特に充実しています。土佐らしさあふれる相合傘や鯨車、闘犬など。





三次人形の内裏雛（広島） 山崎さんが好きな土人形。紅絹（紅色の薄い絹布）で磨きをかけてから顔が描かれます。美しく艶があります。



古賀人形の内裏雛（長崎） おすすめの土人形。色彩が渋いです。西洋婦人や和蘭陀さんなど異国情緒のある題材も多いそうです。

夫婦で旅行をし  
ても、会社で社員  
旅行の担当になっ  
ても、郷土玩具の  
産地をコースに入  
れて計画しました。  
お嬢さんが結婚  
して昭和53年に家  
を建てると、その  
十畳の間が人形部  
屋として提供され  
ました。その頃か  
ら郷土玩具の数が  
さらに増え、やが  
て隣の四畳の納戸  
ももろうことにな  
りました。

長年勤めた仕事

を退職したとき、退職金を握りしめて

向かった先は東京のデパートでした。

その当時は毎年1月に郷土玩具の展示

即売会が開かれていたのです。昭和55

年のことで、開場と同時に催し物会場

をめざして、人びとがエスカレーター

に押し寄せたといえます。それだけ郷

土玩具のコレクターが大勢で、熱気が

あったということでしょう。

### 郷土玩具の魅力に惹かれて

古くから日本の各地に伝わってきた  
郷土玩具は、木や土、紙など身のまわ

りの素材でつくられています。素材で  
温かみのある人形を眺めていると、「心  
が安らぐ」と山崎さんはいいます。  
また、郷土玩具は家族の健康や幸せ  
を祈って求められるものも多く、暮ら  
しと結びついていきます。「郷土玩具に  
は地方地方の個性があり、千差万別で  
それは面白いですよ」と山崎さん。  
山崎さんが集めた郷土玩具をみてい  
ると、その豊かな世界に感嘆します。  
そして、郷土玩具に惹かれて集め続け  
たその人生に感動します。



「張り子に色をぬろう」のうさぎ  
作り手の顔に似るから不思議。  
かわいいうさぎが出来ますよ。

長の波に乗って順調でした。子育ての  
時期は過ぎていましたし、昔気質の奥  
さんも一切口をはさみません。  
郷土玩具収集の環境は整いました。  
いよいよ全国行脚のはじまりです。  
休みになると、山崎さんは郷土玩具  
を手に入れるために旅に出ました。郷  
土玩具の本を片手に完全収集を目指し、  
手に入ったら本の巻末の「全国郷土玩  
具一覧」に印を付けていきました。

情も異なります。また、たとえ、同じ  
人がこしらえた天神さんでも、小さい  
ものが手に入ったら、大きいものも欲  
しくなるのです。コレクターたるもの、  
ひとつ手に入ったら気がすむというも  
のではありません。  
倉敷市の日本郷土玩具館には郷土玩  
具を販売する店があったので、足繁く  
通いました。夜行列車に乗って食事は  
パンひとつですませるの強行軍です。  
しかし、欲しかった郷土玩具が手に  
入ったときの喜びは何ものにも替えが  
たいものでした。

志国高知 龍馬公るざと博

土佐勤王党結成150年記念特別企画

# 勤王党志士たちの遺墨・遺品展

平成23年3月5日～6月26日



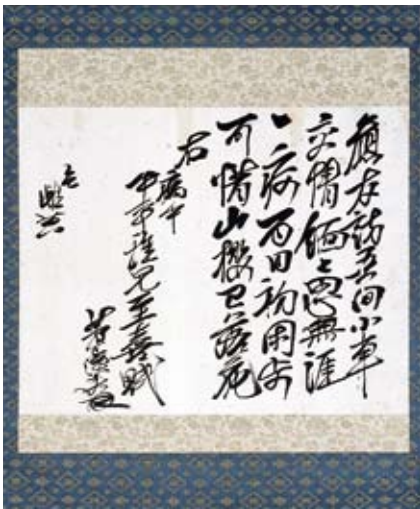
来年は、武市半平太を盟主とする土佐勤王党が結成されて150年目にあたります。

当館では、もう一度土佐勤王党が結成された歴史的意義を問い直すため、黨員として活躍した志士たちの遺墨や遺品を一堂に展示し、彼等の思想・行動、人間性に迫る企画展を開催いたします。

展示構成としては、武市半平太の他、四天王と呼ばれた、坂本龍馬・吉



脇差（拵付）武市半平太所用 武市新一氏蔵



吉村虎太郎七言絶句 館蔵

村虎太郎・中岡慎太郎らの遺墨や遺品を展示。さらに、勤王党の参謀格だった平井収二郎・間崎哲馬・弘瀬健太などの資料も添えることにより、勤王党の絶頂期から衰退期の状況を概観します。また、これまであまり光のあたらなかった志士の遺品も可能な限り紹介したいと思えます。

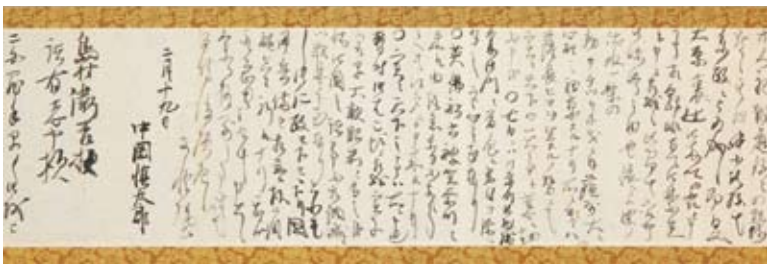
本展の他、こうちミュージアムネット

トワークの加盟館である、高知県立坂

本龍馬記念館・北川村立中岡慎太郎館・

佐川町立青山文庫・龍馬の生まれた町

記念館の各館でも各地の勤王黨員を掘り起こす企画展が順次行われる予定です。そちらの方もご期待ください。



中岡慎太郎書状 文久3年2月19日 島村衛吉宛（部分）南国市蔵

また、プレ企画として、NHK大河ドラマ特別展「龍馬伝」展で三日間だけ公開された坂本龍馬の湿板写真（オリジナル）を11日間（平成23年2月10日～2月20日）連続で特別公開します。他にも父親がわりとなつて龍馬を支えた権平や、権平の後妻・仲をはじめ、大政奉還の

立役者、山

内容堂・後

藤象二郎ら

の湿板写真も展示いたします。



谷干城湿板写真 個人蔵



中岡慎太郎湿板写真 個人蔵



坂本龍馬等寄せ書き胴掛け 個人蔵

※本年原版が発見された中岡慎太郎・谷干城の写真も特別展示されます。



## 考古

### 岡豊山の遺跡

#### ⑤岡豊山古墳の発見

岡豊山に古墳が存在することは、昭和9年(1934)に報じられた『高知新聞』の記事により、県民にも知れるところとなりました。岡豊山古墳出土の土器を鑑定した武市佐市郎(1872~1939)氏は、土佐の考古学の先駆者の1人で、土佐の古墳を初めて集大成しました。その著「土佐古墳の分布」(『土佐史談』第51号、昭和10年6月10日)「岡豊村大字定林寺字芝古墳」の項で、「また昭和九年十月二十日岡豊村吉田の西田良氏の所有にかかる、長宗我部氏城址である岡豊山の三ノ丸地下八尺の個所から、二尺廻り高さ五寸の口付素焼の土器を発掘したが、純然たる祝部土器であつた。尚同年十一月同所から腐



武市佐市郎氏

蝕してはゐるが、一年以上のものであり、千以上のものがあると思しき古刀数口が発見されたのを見ると、この岡豊山にも長宗我部氏が居城を構へる以前には、古墳の存在してゐたことを首肯せしめ得るものである。」と記してあります。この論考は、岡豊山古墳を初めて学術的に取り上げたものです。なお、武市氏は最後に寺石正路氏に「御教示御校閲を受けましたことを深謝」しています。(岡本)

## 歴史

### 永遠の先輩、福吉先生

本年9月、当館の資料調査員として実に15年もの間、歴史・民俗分野の調査にご協力いただいた福吉要吉氏が亡くなりました。

氏は、長宗我部氏時代の地元の水主や、江戸初期に大月から切り出された石垣普請用の献上石の問題など、常に愛する古里・大月町に軸足を置いた地道な研究を信条としました。また、「古満目の水あびせ」など、地元にも古くから残る民俗行事に関する知識も豊富で、民俗分野にとつてもなくてはならない協力者の一人でした。私個人として印象深かったのが、「屍衛兵」に代表される、ご自身の強烈な戦争体験を綴った「従軍記録」※のご提供です。同郷の若き戦友が戦病死し、灰になるまで衛兵として見届けた経験は、戦後氏を教壇に向かわせ、「平和教育」の実践者とならしめる一方、名も無き庶民の歴史を記録する原動力になりました。

氏は常々「えい施設と資料に恵まれちやうがやけん：しっかりやったや」と私たちを叱咤され、「歴史をやるもんは評論家になつたらいかん」と、研究者としての姿勢を説かれました。先輩福吉先生の志を私たちはいつまでも忘れません。(野本)



※当館のみならず、国立歴史民俗博物館資料調査報告書14「戦争体験の記録と語り」に関する資料調査4にも採録され、多くの研究者に公開・活用されています。

## 民俗

### 岡豊別宮八幡宮の秋祭り

祭祀調査というと、ついつい遠い所の著名な祭りを追い求めてしまうのですが、恥ずかしながら資料館の真向かいにある別宮八幡宮の祭祀を見学したことがありませんでした。

今年、ようやくお膝元の祭りを見学させて頂きました。民俗芸能の奉納こそ無いものの、さまざま興味深い行事がありました。オハケという御幣を先端に飾った長い竹を当屋に立てる習俗は県中部に広く分布していますが、ここ別宮八幡宮でも見られました。祭りの当日は早朝5時から「起こし太鼓」と言って、当番の人が氏子の範囲を太鼓を叩いて回ります。6時からのみそぎの儀式に先だって、参加者を起こして回るのだそうです。午後1時からのおなげれでは、担ぎ手が少なくなったので神輿は軽トラックで山を下りましたが、おつきの人々は風情のある長い石畳の参道を歩いて降りていきました。山を降りた神輿は地元の人々から大歓迎を受けていました。足下の民俗に興味の尽きない一日でした。(梅野)



午前6時、みそぎのために岡豊橋のたもとに人々が集まって来た。

## 53年ぶりに県内の仏像5軀が

国の重要文化財に指定される。

平成22年6月29日、吾川郡仁淀川町（旧池川町）の臨済宗妙心寺派の養花院に伝世されている木造菩薩坐像が国の重要文化財に指定されました。京都竜安寺境内の本堂の東南にあった養花院は、永正元年（1504）に建立され、明治25年7月に現在地へ移ったとされています。この菩薩坐像は、木造仏としては県内最古、奈良時代後期およそ760年代のものとみられています。758年に鑑真和尚来朝と共に伝えられた新しい様式を示すものとして注目されています。



木造菩薩坐像 養花院蔵

また、国宝薬師堂で知られる、大豊町豊楽寺（仁平元年（1151））の木造両脇侍像と木像二天王立像が国の重要文化財として追加指定となりました。養花院の仏像を1月に当館で公開します。（岡本）



## まほろばガイド認定!!

昨年7月からガイド育成講座12回を開催し、その受講者30名のうち岡豊山ガイドの実践研修に参加した8名を11月10日「土佐のまほろばカルチャーガイド」として認定しました。認定された8名には認定書・特製のベスト・帽子が贈られました。

これから、当館のイベントや史跡巡りで活躍して下さることでしょう！

（濱田）

# れきみんニュース



## 大好評 郷土料理伝承塾

昨年までの「高知の食文化を味わう〜食のこころ〜」の第2弾として今年からスタートしました。郷土料理を食べるだけでなく、レシピを広げて行くことを目指しています。

これまでに、開催した内容は「南国市の田舎寿司・四方竹」「宿毛市のきびなご料理」「安芸市のちらし寿司・茄子料理」で、大変好評でした。

今年度最後の開催は、23年2月20日となっております。ぜひご参加下さい。

（濱田）



## ゆるきゃら大集合 もとちか君「まんざら」へ行く!!

11月6日・7日に高知市文化プラザかるぽーとで行われた「まんざらー高知まんがフェスティバル」へもとちか君が参加しました。

高知県内のゆるきゃらを集めた「ゆるきゃらストリート」にはもとちか君を含め5体の着ぐるみが登場！会場ではとさわ賑わいを見せていました。

みんなで集合写真を撮りました！（濱田）





# 歴民館のお正月

新年は1月2日(日)9時より開館します。

## 新年のイベントご案内

### ① くじ引き大会

1月2日(日)・3日(月)

両日とも9:00～ 先着各日50名様  
歴民館からのお楽しみくじ引きプレゼント。

### ② 新年! 歴民お茶会

1月2日(日) 9:00～ 先着50名様

### ③ ワクワワーク「昔遊び」

1月2日(日) 10:00～12:00

「昔あそび」コマまわしや  
おはじき、あやとりを  
します。要予約、先着30名



### ④ 日本の音色

1月2日(日) 10:00～12:00

琴古流尺八竹童社藤寿会高知支部の方々による演奏。

### ⑤ 長宗我部展示室本陣解説

1月2日(日) 11:00～12:00

本陣復元の根拠と軍議の概要について解説します。

### ⑥ 企画展「昔のおもちゃ博物館」展示トーク

1月2日(日) 14:00～14:30

## 新刊案内

### 企画展「幕末維新土佐庶民生活誌」パンフレット

江戸時代後期から明治時代前期にかけての土佐の庶民を描いた絵画資料をオールカラーで集成。

A4判横長32P  
売価 500円



### 年末年始休館のお知らせ

平成22年12月27日(月)～平成23年1月1日(土)は休館といたします。

岡豊風日(おこうふうじつ) 第73号	平成22年12月1日	編集・発行 高知県立歴史民俗資料館	〒783-0044 南国市岡豊町八幡1-099-1	TEL 088(862)2211	FAX 088(862)2110	開館時間 午前9時～午後5時	休館日 年末年始12月27日～1月1日	臨時休館あり	観覧料 通常期常設展 大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円	(企画展)常設展示込 500円・団体(20人以上) 400円	無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)	印刷・川北印刷株式会社
--------------------	------------	-------------------	---------------------------	------------------	------------------	----------------	---------------------	--------	--	--------------------------------	---	-------------

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成23年1月～3月の催し

企画展

## 昔のおもちゃ博物館

あんぎゃ

—山崎茂さんの全国郷土玩具行脚—

平成23年1月2日(日)～3月6日(日)

高知市にお住まいの山崎茂さんの郷土玩具コレクションを紹介いたします。おひなさまや干支のうさぎなど全国各地の郷土玩具をお楽しみください。



安芸張り子のうさぎ(高知県)

### 展示室トーク ●予約は不要です。

1月2日(日) 14:00～14:30

1月23日(日) 14:00～15:00

2月13日(日) 14:00～14:30

### ワクワクワーク ●電話等で要予約(先着30名)

1月16日(日) 14:00～15:30 講師:草流舎のみなさん  
うさぎ張り子に色をぬろう (材料費1,500円)

2月20日(日)

14:00～15:30

講師:草流舎のみなさん

おひなさま張り子に  
色をぬろう

(材料費1,200円)



1月2日(日)～3月6日(日) 企画展開催中常時下記の

イベントを行なっていますのでご参加ください。●予約は不要です。

●昔のおもちゃの絵をかこう ●昔のおもちゃクイズ

## 国の重要文化財に指定された 県内最古の木造菩薩坐像1軀を展示

期間:2011年1月8日(土)～1月30日(日)

特別講演会

仮題「仁淀川町養花院の奈良時代の木造菩薩坐像」

文化庁文化財部美術学芸課 主任文化財調査官奥建夫先生

平成2011年1月15日(土) 午後2時～4時 定員140名

電話・メール・葉書で申込



## 志国高知 龍馬ふるさと博 プレ企画 坂本龍馬湿板写真特別展示

2011年2月10日(木)～2月20日(日)



### 次回企画展

土佐勤王党結成150年記念特別企画

## 勤王党志士たちの 遺墨・遺品展

2011年3月5日(土)～6月26日(日)

